

指定管理者評価シート

事業名	青少年山の家運営管理費	所管課(電話番号)	教)生涯学習推進課 (211-3872)
-----	-------------	-----------	----------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市青少年山の家	所在地	南区滝野247番地
開設時期	平成元年9月	延床面積	5,234㎡
目的	自然環境の中における宿泊を伴う集団生活、野外活動その他の活動を通じて青少年の健全な育成を図ることを目的とする。		
事業概要	野外活動の指導助言・普及振興・調査研究、施設の利用調整など		
主要施設	管理研修棟、宿泊棟、多目的ホール		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会		
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		
募集方法	公募		
指定単位	施設数: 1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	①統括管理業務 ②施設・設備等の維持及び管理に関する業務 ③施設における事業の計画及び実施に関する業務 ④施設の利用等に関する業務 ⑤前各号に掲げる業務に付随する業務		
3 評価単位	施設数: 1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

Ⅱ 令和7年度管理業務等の検証

項 目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1) 統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定	社会情勢の変化や利用者のニーズに常に対応するために、指定管理業務計画書の検証、自己評価を随時行い、いち早く課題を認識し優先順位を検討しながら施設の維持管理を行った。事業においては、体験機会を拡充することができた。	A B C D
	管理運営にあたり、業務仕様書および管理運営マニュアルを厳格に遵守し、点検等を確実に実施した。業務ひとつひとつの正しさを見極め、正確に運営することに努めた。 「体験をとことん楽しむ探求の家」と「公正な社会を生み出す対話の家」を軸に、すべての人たちが公正に体験活動へチャレンジできる環境の醸成に努めた。現代の社会課題解決にも取り組み、社会教育施設としての存在意義と利用価値の向上を図った。持続可能な施設運営の実現には、財政基盤の安定と収益の改善に向けて「新規利用者の獲得」と「既存利用者の確実なリピート確保」を最優先課題に掲げ、大学、高校、中学校や企業社員向けチームビルディング研修、自然体験活動など、施設の新たな利用方法の提案ができるように準備を行った。		管理運営業務に係る基本方針として『探究と対話の家』という大きなテーマを掲げ、体験をとことん楽しむ“探究の家”、公正な社会をうみだす“対話の家”という2つのテーマと、3つの重点目標を設定し運営を行った。 また、持続可能な施設運営の実現に向けて、利用促進に向けた取組を行った。
	▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績		条例、施行規則及び各種取扱要領に関する理解と必要な利用者対応について、日々の打ち合わせや定期会議にて話題とし職員間で確認し意識と行動の統一を図った。また、平等な情報提供のため、ホームページに施設の利用案内動画や予約状況を掲載したほか、ホームページのウェブアクセシビリティ確保に取り組んだ。
	▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進		地方自治法第244条第2項及び第3項を遵守するとともに、札幌市青少年山の家条例をはじめ、関係法令、社会通念を鑑み、すべての市民及び団体に対して平等利用の確保ができた。
	札幌市環境マネジメントシステムに則り、ペーパーレスを目指し可能な限りデジタルデバイスの活用を進めた。また、節電・節水等について施設として省エネ対策に取り組むことはもとより、利用者に対しても省エネについて考えてもらえるよう、プログラム内容への盛り込みやプログラムシートへの記載を促した。	宿泊利用や日帰り利用に伴い、節電・節水の協力を利用団体へ促し、削減にご協力いただいた。	施設として省エネに取り組むとともに、利用者に対しても省エネについて呼びかけ環境配慮の推進に努めている。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

山の家の統括責任者として館長に野外施設部長を配置し、当財団が指定管理者として管理運営する定山溪自然の村、北方自然教育園及び財団が自主運営する滝野自然学園を含め、運営資源の連動(事業、研修)を意識して取り組んだ。

国営滝野すずらん丘陵公園を管理する「公園管理事務所」及び公園の指定管理者である「SPAC滝野管理センター」とも良好な関係を維持し、事業連携に積極的に取り組んだ。

野外教育施設職員として必要な資質の向上に努め、研鑽を重ねた。研修では消防設備の取扱やリスク管理について学び、実践的に人材を育成できた。

統括責任者を配置し、指定管理者が管理する他施設や施設が立地する国営滝野すずらん丘陵公園の管理者との連携も図っている。また、研修により人材育成に努めている。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

利用者とのコミュニケーション、利用者アンケートで寄せられた要望・意見に関する情報は職員間で共有し、迅速に改善に取り組んだ。また、内容により警備、清掃、給食業者とも随時伝達と意見交換を行った。

職員間の伝達では安全点検を含めて始業時の朝礼と17時の終礼を毎日実施し、適切な申し送りを行うよう務めた。また、実施担当者同士の会議、運営に関わる会議、全体での会議など、効果的かつ効率的に会議等を実施した。公園管理者とは公園合同連絡会議、安全衛生協議会を通じて調整機会を定期的に設けた。

利用団体の満足度向上や安全な環境の醸成を目指し、寄せられた意見を速やかに検討し改善に努めた。管理水準の維持及び向上のため、施設・財団職員、公園管理者との密な情報共有を意識し連携できた。

利用者の要望・意見の把握に努め、委託業者とも共有して改善に努めている。職員間や公園管理者との情報共有により管理水準の維持向上に取り組んでいる。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

資格及び専門的知識・経験を必要とする業務について、当財団の規定に基づき業者選定や入札等の所定の手続きを適切に行い、専門業者に委託した。委託業務の履行にあたっては、令和6年から7年の管理不十分の反省を活かし指定管理者として必要な指導、指示、検査、確認を組織として徹底し再発防止に努めた。また、札幌市暴力団の排除の推進に関する条例の基本理念に則り、暴力団の活動に施設を利用させない、委託や物品購入など暴力団や暴力団関係者を契約相手としないなど、暴力団排除に取り組んだ。

食堂業者について、アレルギー面に配慮した食事の提供が年間をとおして達成できた。清掃業者とも情報共有を密にし、日々施設管理に努め衛生的な環境を維持することができた。

食堂や清掃事業者との連携は密に行われ履行水準の確保に努めている。また、令和7年度に文書による改善指導を行ったレジオネラ属菌検出については、水質検査の監督履行確認や検査結果のチェックを徹底するなど衛生環境の維持に努めている。今後も引き続き、施設の安全衛生に努めていきたい。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回	令和7年6月13日(金) ＜配布資料＞令和6年度年度利用状況、アンケート調査結果について、令和6年度事業報告、令和7年度年度事業計画について
第2回	令和7年12月9日(火) ＜配布資料＞令和7年度利用状況、アンケート調査結果報告、令和7年度事業中途報告(上半期分)、令和7年度下半期事業予定等について

＜協議会メンバー＞

- ・国営滝野すずらん丘陵公園事務所総務課長
- ・札幌市小学校長会副会長
- ・青少年山の家ボランティア代表
- ・公益社団法人札幌市子ども会育成連合会本部事務局長
- ・北翔大学生涯スポーツ学部健康福祉学科准教授
- ・札幌市野外活動教育研究会会長
- ・芸術の森地区連合会会長
- ・滝野町内会会長
- ・札幌市教育委員会総務部生涯学習推進課長
- ・公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会野外施設部長(札幌市青少年山の家 館長)

【滝野公園連絡会議】

- ・日 程 4～3月(月1回)、年間12回開催
- ・メンバー 国営滝野すずらん丘陵公園事務所
滝野管理センター
- ・内 容 月の利用状況等の確認、協議連絡

【滝野公園安全衛生会議】

- ・日 程 6～2月(月1回)、年間9回開催
- ・メンバー 国営滝野すずらん丘陵公園事務所、
滝野管理センター、
公園内工事等の各業者
- ・内 容 月の工事予定、安全管理について

【北海道青少年教育施設協議会会議】

- ・日 程 5月総会・研究協議会(オンライン)
所長・職員研究協議会11月
ネイパル森で実施
- ・メンバー 国立日高青少年交流の家、
大雪青少年自然の家、道内各ネイパル
他、施設協議会加盟施設(全17施設)
- ・内 容 総会、研修会、交流会他

運営協議会では、上半期・下半期事業の様子や利用者満足度について報告し、今後の発展に向けた意見交換ができた。

要求水準に従い、運営協議会は6か月に1回程度開催されており、事業内容等について協議が行われている。

また、関係機関と適宜連絡調整を行い、施設運営にあたり良好な関係を維持している。

公園事務所と随時協議し、開園時間外の安全確保策と利用環境確保について確認を行うことができた。良好な関係を維持し、日頃からの密な情報共有ができた。

北海道内の関連施設と実践的な学びの場を設け、各施設と情報交換を行い知見を得ることができた。

	▽ 財務(資金管理、現金の適正管理) 当財団が定める処務規程と金券等取扱要領に基づき金銭の取扱い及び経理事務を適正に行った。内部監査を10月に実施するとともに、所管部局である札幌市教育委員会による指定管理業務・財務検査を3月に受け、適正に処理されていることを確認した。 現金の取扱いの際は複数名の職員による確認を徹底するとともに、管理部門責任者は必要書類・帳簿のチェックを行い、収入および支出事務を適正に行った。 ▽ 要望・苦情対応 要望や苦情の対応にあたっては「迅速・丁寧・真摯・平等」な対応を心がけ、対応後は情報を共有した。また、アンケート等に記載があった場合は、受取りの際、団体代表者に直接口頭で内容を確認し、可能な限り即時に対応することで利用満足度の向上に努めた。 ▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施) 記録については、日誌や社内メールなどで記録と職員間での情報共有に努めた。事業に関する情報管理は電子データにて作成・保管し、安全管理に努めた。事業後は速やかに報告書を作成した。	当財団が定める処務規程と金券等取扱要領に基づき、金銭の取扱いを適正に管理できた。 アンケート等で記載された要望・意見に対し迅速な事実確認と対応を行うことで高い利用者満足度を維持することができた。 各月ごとの活動について、報告書を作成し提出した。また、検査や調査に適宜、対応することができた。	財務検査の結果、適正に実施されていることを確認した。 アンケート等に要望・意見の記載があった際は、口頭でも内容確認を行うなど、丁寧な対応が利用者満足度につながっている。 業務検査を通じて、適正に記録・管理されていることを確認している。								
(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む) 労働基準法、労働安全衛生法、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法等の労働関係法令を遵守するため、就業規則を整備し、必要な届け出を確実にするとともに適切な労務管理を行った。また、職員一人ひとりのライフスタイルに合わせた働き方ができるよう、雇用環境の向上に取り組んだ。	適正な勤務シフトの編成や、有給休暇の取得推進を実施し、また、第三者委託業者とも連携し労働環境を整備することができた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">適切な労務管理が行われているとともに、労働環境の向上に取り組んでいる。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	適切な労務管理が行われているとともに、労働環境の向上に取り組んでいる。			
A	B	C	D								
適切な労務管理が行われているとともに、労働環境の向上に取り組んでいる。											

(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)		A B C D
	日常的な点検や整備により、常に最良な状態を保つよう管理し、維持管理の作業にあたっては、施設利用者の支障にならない時間帯や作業内容に配慮した。朝礼及び17時時点での引継ぎ、事業日誌で情報を共有し、危険箇所の早期発見、故障の未然防止に努めるとともに、故障が起こった際は迅速な初期対応を行うことで、利用者の安全確保に努めた。また浴槽等の衛生管理、水質検査の確認方法などを確認し行動した。札幌市教育委員会、国営滝野すずらん丘陵公園事務所、滝野管理センター、関係機関との連絡体制を確立し、緊急時に迅速な対応をとれるよう備えた。	再整備したマニュアル及び業務を遂行し、日常の維持管理、点検に努め安定した運営ができた。特に浴室衛生管理について、第三者委託先である検査機関との仕様書を変更し、安全管理体制を強化することができた。	令和7年1月に発生したレジオネラ属菌検出の検査結果を見落とし発覚が遅れた件については、安全管理体制を強化し利用者の安全確保に努めている。今後も引き続き、施設の安全管理体制の維持に努めていきたい。
	▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等) 建物・設備等の点検について、施設内及び外観の劣化や機能の低下の有無を日常的に点検し、破損や不具合等を発見次第、早急に修繕対応した。 防火管理については防火管理者を配置、自衛消防組織を編成し、関係機関へ消防計画を提出の上、消防訓練を2回実施した。 <警備業務> 夜間における施設の警備、施錠・開錠等、施設内外の警備を専門業者に委託し実施した。 <清掃業務> 施設内外の日常清掃及びワックスがけ等の特別清掃を専門業者に委託し実施した。 <塵芥処理・産業廃棄物収集運搬処理業務> 一般廃棄物、飲料缶・ビン・ペットボトル等の再生可能廃棄物、生ゴミ等の日常的な廃棄物について専門業者に委託し、定期収集により施設の衛生環境を保ちつつ処理した。また、産業廃棄物等については順次専門業者に依頼し処理した。	業務仕様書および施設維持管理マニュアルを厳格に遵守し、日々の巡回点検、設備稼働状況の確認、定期保守を遅滞なく基本に忠実に確実に実施した。個人の経験則に頼るのではなく、チェックリストに基づくダブルチェックを徹底したことで、異常の早期発見・早期対応に努め、施設の安定稼働と安全な利用環境を維持することができた。	日々の巡回点検・確認や職員のダブルチェックの実施、業務委託等により施設・設備の維持管理に努めている。今後も必要に応じて仕様内容を見直すなど、利用者の安全確保により一層努めていきたい。

管理項目

- ① 自家用電気工作物保安全管理(毎月実施/年次点検年1回実施11月)
- ② 受水槽・貯湯槽等消毒点検(年1回 6月)
- ③ 空気環境測定(年6回実施 4、6、8、10、12、2月)
- ④ ねずみ衛生害虫等防除業務(年2回 4月、10月)
- ※ 厨房のみを追加で4回実施(6月、8月、12月、2月)
- ⑤ 屋内外雑排水管清掃(年2回 5月、11月)
- ⑥ 汚水槽・グリスピット清掃(年2回 5月、11月)
- ⑦ 水質検査(年2回 6月、12月)
- ⑧ 研修棟・多目的ボイラー整備(7月)
- ⑨ 消防設備点検(年2回実施 8月、2月)
- ⑩ 建築基準法十二条点検(設備点検/年1回 8月実施)
- ⑪ 研修棟ボイラー煤煙濃度測定(年2回 9月、3月)
- ⑫ 多目的ホール水質検査及び貯湯槽点検(10月)
- ⑬ 高温風暖房機保守点検(11月)
- ⑭ 多目的ホール吸煙装置保守点検(昇降装置/11月実施)
- ⑮ 多目的ホール吸煙装置保守点検(排風装置/11月実施)
- ⑯ 浴槽循環装置(ろ過器)清掃(2月実施)
- ⑰ 石油燃焼機器点検(7月)
- ⑱ 建築物環境衛生管理技術者(毎月実施)
- ⑲ 窓ガラス・窓枠サッシ清掃(5月)
- ⑳ 床面ワックス(8月、3月)
- ㉑ 歩くスキーメンテナンス(11月)
- ㉒ フローリング・カーペット清掃(11月)
- ㉓ 多目的ホール人工芝清掃(12月)
- ㉔ 多目的ホール照明器具清掃(12月)

▽ 防災

訓練実施日	実施内容	想定内容	年2回消防訓練と救命講習を実施し、最新の知識を学ぶことができた。また、令和8年2月28日、防火対象物点検特例認定施設の申請が承認された。	訓練・講習実施に加え、防火対象物点検特例認定施設となるなど、防災に取り組んでいる。
令和7年 6月2日	総合訓練 (消火、通報、避難、災害対策)	火災、地震等を想定しての総合訓練		
令和8年 2月18日	部分訓練 (消火、避難、災害対策)	冬季の災害を想定しての部分訓練		

(4)事業の計画・実施業務		▽ 青少年の集団生活・野外活動等の指導助言に関する業務				A	B	C	D										
①施設利用に係る利用者への指導助言 利用団体の活動がスムーズに行われるよう、プログラム立案時の事前相談、入館から退館まで適切な利用案内及び積極的な指導助言を行った。 ・事前調整 ・利用打合せ ・活動支援 ・夜間対応 等 ・利用支援・促進事業		<table><tr><th>事業名</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>合同説明会</td><td>15回167校 延べ483名</td></tr><tr><td>合同下見会及び個別下見対応事業</td><td>963名</td></tr><tr><td>出前授業</td><td>63校延べ4,650名</td></tr><tr><td>学校利用抽選及び利用日選定</td><td>187校</td></tr></table>		事業名	参加人数	合同説明会	15回167校 延べ483名	合同下見会及び個別下見対応事業	963名	出前授業	63校延べ4,650名	学校利用抽選及び利用日選定	187校	宿泊学習及び団体利用が円滑に行われるよう、プログラム等の紹介や事務手続きに関する説明をオンライン上で公開し、視覚的な情報提供ができた。また、出前授業では探究や対話を重点に展開し、宿泊学習へ向けた事前準備の機会を提供できた。		合同説明会や下見会、出前授業のほか、オンラインでも説明内容を確認できるようにするなどきめ細やかな支援により、利用団体の不安解消等に繋がっている。			
				事業名	参加人数														
				合同説明会	15回167校 延べ483名														
				合同下見会及び個別下見対応事業	963名														
				出前授業	63校延べ4,650名														
学校利用抽選及び利用日選定	187校																		
②提供プログラム 自然体験活動を推進するため、施設及び公園フィールド等を活用し、環境教育・ESD及び社会的課題の解決(SDGs)の視点を意識し活動プログラム(事業)を開発・提供した。		<table><tr><th colspan="2">分類</th><th>活動プログラム</th></tr><tr><td rowspan="3">野外活動</td><td>自然体験</td><td>・ハイキング ・ウォークラリー ・オリエンテーリング ・キャンプファイヤー ・ナイトハイキング ・火起こし体験 ・星空観察 ・自然観察 ・バードウォッチング</td></tr><tr><td>冬</td><td>・自然観察 ・スノーシュートレッキング ・チューブすべり ・アニマルトラッキング ・歩くスキー ・スノークラフト ・スノーキャンドルづくり</td></tr><tr><td>炊事</td><td>・防災炊事 ・焚火でおやつ体験 ・カレーライス ・肉野菜炒め ・豚汁</td></tr></table>		分類		活動プログラム	野外活動	自然体験	・ハイキング ・ウォークラリー ・オリエンテーリング ・キャンプファイヤー ・ナイトハイキング ・火起こし体験 ・星空観察 ・自然観察 ・バードウォッチング	冬	・自然観察 ・スノーシュートレッキング ・チューブすべり ・アニマルトラッキング ・歩くスキー ・スノークラフト ・スノーキャンドルづくり	炊事	・防災炊事 ・焚火でおやつ体験 ・カレーライス ・肉野菜炒め ・豚汁	滝野すずらん丘陵公園内にある立地条件を生かした野外活動プログラムを体験することができた。 野外炊事では共同作業をとおして日々の食事、生活を振り返る機会となり、同時に助け合いを通じたチームビルディングの場として提供することができた。		自然体験を通して環境意識を高め社会課題解決に寄与するほか、チームビルディングの場としても活用されるなど各種プログラムを提供している。 引き続き、魅力的なプログラムの開発・提供に取り組んでいきたい。			
				分類		活動プログラム													
				野外活動	自然体験	・ハイキング ・ウォークラリー ・オリエンテーリング ・キャンプファイヤー ・ナイトハイキング ・火起こし体験 ・星空観察 ・自然観察 ・バードウォッチング													
					冬	・自然観察 ・スノーシュートレッキング ・チューブすべり ・アニマルトラッキング ・歩くスキー ・スノークラフト ・スノーキャンドルづくり													
					炊事	・防災炊事 ・焚火でおやつ体験 ・カレーライス ・肉野菜炒め ・豚汁													

分類		活動プログラム
室内活動	動的活動	・室内キャンプファイヤー ・キャンドルサービス ・ソフトバレーボール ・バドミントン ・フォークダンス ・ニュースポーツ ・レクリエーション ・館内生き物さがし
	クラフト活動	【セルフクラフト】 ・マイ箸づくり ・木のマグネット ・軟石クラフト ・風車

▽ 青少年の集団生活・野外活動の普及・振興に関する業務

①体験活動の普及・啓発事業

これまで当財団が実施してきた自然体験活動事業におけるノウハウを最大限に発揮し事業を展開した。自然体験及び集団生活の場としての機能を生かし、自然とのふれあいや日常生活とは異なる活動をとおし、青少年の健全育成に努めた。

事業名	回数	参加人数
大人も子どもも宿泊学習	2回	延べ168名
空き室活用事業 フリープラン事業	3回	延べ21名
気軽に滝野に泊まろう	3回	延べ168名
札幌市林間学校	8回	延べ396名
プログラム体験会	1回	31名
地域連携事業	6回	延べ1,100名
やりたいをかなえる「こども どまんなか」プロジェクト	3回	延べ184名
あそびばざーる2026	1回	447名
他課連携事業	4回	507名

宿泊、日帰りの様々な形態にて市民へ自然体験の良さを広めることを目指し事業を展開した。特に、小学生世代の利用者及び保護者にはデジタルデトックスの側面も有した体験を提供し、好評を得ることができた。

自然体験活動や集団生活を体験することにより、日常とは違った形で他者と協力する機会を提供するなど、青少年の健全育成に寄与している。

②社会課題に基づく事業

生涯学習及び体験機会の創出の観点より、体験活動の普及振興と、体験プログラムの拡充を目的に実施した。

事業名	回数	参加人数
体験格差縮小のための事業「札幌市青少年山の家×スペシャルまなべえとまるべえ」	1回	115名
子どもの体験格差解消事業	2回	48名
ESD(持続可能な開発のための教育)推進事業	4回	291名

③指導者養成事業

野外教育に携わる指導者の養成及びボランティアの育成・活動支援を行い、施設内外の野外教育ネットワークの拡充・野外活動の普及振興に努めた。

事業名	回数	参加人数
ボランティア活動支援事業	8回	延べ18名
インターンシップ受入れ	2回	延べ2名
指導者養成事業 キャンプインストラクター養成講習会	1回	29名
指導者養成事業 北海道青少年教育施設協議会 所長研修・職員研究協議会	1回	3名

野外施設における生涯学習をテーマに、体験機会の充実や自然観察の目を養う事業を展開した。多くの参加者に、自然の中で遊ぶ楽しさ、観察をととして学びを深める面白さを伝えることができた。

社会課題に基づく事業では、自然体験活動等の体験格差解消を目指して様々な事業を展開している。

実施計画書および安全管理マニュアルの基本を厳格に遵守し、野外教育指導者の養成およびボランティアの育成・活動支援を計画通り確実に遂行することができた。

野外教育の普及振興のため、指導者養成やボランティア育成に継続的に取り組んでいる。

	▽ 青少年の集団生活・野外活動等の調査研究に関する業務 独立行政法人国立青少年教育振興機構、日本キャンプ協会、北海道青少年教育施設協議会など、これまで当財団が培ってきた他団体とのネットワークを最大限に活用し、野外活動に関する調査研究と最新の情報収集を行った。 〔参加したネットワーク〕 ①独立行政法人国立青少年教育振興機構 (国立の青少年教育にかかる事業及び宿泊施設運営) ②北海道青少年教育施設協議会 (道内にある国立、道立、市町立青少年教育施設17施設が加盟) ③CISEネットワーク (札幌周辺地域の自然史系博物館を中心とした関連施設が連携し、 地域住民への実物科学教育を進めるネットワーク) ④一般社団法人北海道キャンプ協会	関係機関との関わりの中で、各施設やフィールドの現状を共有することで、施設運営や新規プログラム開発の有効な情報を得る機会とすることができた。	関連するネットワークへの参加等を通じて、野外活動に関する情報収集に努めている。																				
(5) 施設利用に関する業務	▽ 利用件数等 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R6年度実績</th><th>R7年度計画</th><th>R7年度実績</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総利用人数(人) ※延利用者数</td><td>60,743</td><td>62,000</td><td>60,627</td></tr> <tr> <td>実利用人数(人)</td><td>36,440</td><td>38,000</td><td>35,259</td></tr> </tbody> </table> ▽ 不承認 0件、取消し0件、減免231件、還付0件		R6年度実績	R7年度計画	R7年度実績	総利用人数(人) ※延利用者数	60,743	62,000	60,627	実利用人数(人)	36,440	38,000	35,259	市内小学校を中心に、市内外の中学・高校や少年団体、企業による研修等での宿泊利用、子ども向けレクなどの日帰り利用があり、前年度と同程度の利用者数となった。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> 小学校の宿泊学習のほか、それ以外の学校や企業などの利用促進に努めていることで、高校・大学や少年団体などの利用増加がみられる。 </td></tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	小学校の宿泊学習のほか、それ以外の学校や企業などの利用促進に努めていることで、高校・大学や少年団体などの利用増加がみられる。			
	R6年度実績	R7年度計画	R7年度実績																				
総利用人数(人) ※延利用者数	60,743	62,000	60,627																				
実利用人数(人)	36,440	38,000	35,259																				
A	B	C	D																				
小学校の宿泊学習のほか、それ以外の学校や企業などの利用促進に努めていることで、高校・大学や少年団体などの利用増加がみられる。																							
(6) 付随業務	▽ 広報業務 広報媒体として配布しているパンフレットの内容を精査し、情報を更新した。また、ホームページにて活動の紹介を修正し、最新の情報を提供できるよう努めた。 ▽ 引継ぎ業務 前年度からの継続のため、引継ぎ業務は特になし	新規利用者の獲得のためホームページ、SNSなどで広報活動を推進することができた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> ホームページやSNS等を通じ、施設のPRや情報提供を図っている。 </td></tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	ホームページやSNS等を通じ、施設のPRや情報提供を図っている。															
A	B	C	D																				
ホームページやSNS等を通じ、施設のPRや情報提供を図っている。																							

2 自主事業その他

▽ 自主事業

事業名	回数	参加人数
指導者派遣事業 駒岡小学校講師派遣	2回	延べ145名
歩くスキー出前授業	12回	延べ730名
ESD出張事業 ヒグマトランクキット	11回	延べ426名

計画通り3事業を確実に実施した。各地域、各対象の子どもたちに合わせたプログラムを提供することができた。

A	B	C	D
自主事業の実施状況は承認内容と同一であり、かつ区分経理が適切になされている。 子どもたちへの体験機会の提供や、環境教育の推進に引き続き努めていただきたい。 また、物品販売等も適切になされている。			

【売店での物品販売及び自動販売機の設置】
窓口にて物品販売を行うほか、自動販売機による清涼飲料水及び氷菓の提供を行い、利用サービスの向上に努めた。

売上金額(物販)	68,720円
----------	---------

(令和6年度実績: 85,590円)

前年度に引き続き、ニーズの高い商品を販売し安定したサービスの提供ができた。

▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等

委託業務や物品の購入、特に事業チラシの印刷等に関して札幌市内の企業等を積極的に活用した。

市内企業を積極的に活用した。

市内企業が活用されている。

3 利用者の満足度				
▽ 利用者アンケートの結果			A	B C D
実施方法	入館時に各団体にアンケートを依頼し、退館時に回収した。方法としては紙面での回答の他にQRコードを用いたオンラインを用いての方法で行った。	アンケートについて、いずれの項目においても目標値を超える高い評価を得ることができた。 事前の利用調整から連絡を密にし、当日の臨機応変な対応をとおして、各団体より好評の声を聞くことができた。昨年度に続き、食堂に対する感謝の声も多く、アレルギー対策と味が両立した給食が評価された。	職員のきめ細やかな対応や支援により、各項目で高い満足度が維持されている。 食堂のアレルギー対応なども評価されている。	
結果概要	配布数:369件 回収数:284件(回収率:77.0%) ・利用のしやすさに対する満足度 90%(目標:80%以上) ・職員の接遇に関する満足度 98%(目標:80%以上) ・活動プログラムに対する満足度 96%(目標:80%以上) ・総合満足度 98%(目標:80%以上)			
利用者からの意見・要望とその対応	・利用に関して、前年度に引き続き満足の声をいただいている。 ・施設の状態やプログラムにおける掲示などの改善点が寄せられた際は適宜対応し改善した。 ・申請について、簡便化を望む声が寄せられている。			

4 収支状況

▽ 収支

(千円)

項目	R7年度計画	R7年度決算	差 (決算-計画)
収入	222,615	227,410	4,795
指定管理業務収入	220,315	225,025	4,710
指定管理費	127,294	129,911	2,617
利用料金	84,739	84,741	2
その他	8,282	10,373	2,091
自主事業収入	2,300	2,385	85
支出	235,656	233,101	▲ 2,555
指定管理業務支出	235,496	232,184	▲ 3,312
自主事業支出	160	917	757
収入-支出	▲ 13,041	▲ 5,691	7,350
利益還元	0	0	0
法人税等	0	0	0
純利益	▲ 13,041	▲ 5,691	7,350

▽ 説明

収入では、主に賃金スライド制度に伴う指定管理費、宿泊税導入に伴うシステム改修の補助金獲得がその他における主な増加要因である。支出では、人件費及び積雪量により変動する冬季費用の抑制が主な減少要因である。

宿泊税の導入に伴うシステムの改修など、外部要因での支出増に対しては、補助金を申請するなど、財源を確保しながら適正に取り組んだ。また、経常にかかる費用を見直し小さな削減を積み重ねることから費用圧縮に努めた。積雪量が想定より少なかったことも作用し、計画時よりも収支を改善できた。

A	B	C	D
物価高騰や宿泊税導入準備などの支出増加要因はあったが、収入の確保に努め、支出の面では人件費削減、光熱水費の削減、積雪量の影響などにより計画時よりも収入が増加し、支出が減少している。			

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持 年々かかる費用が物価上昇等に伴い増大している。今後の施設維持においても無駄を省くことからコストの削減を心掛け、安定した運営を維持する。また、係る物品、委託業務についても見直しを進め、適正な経費での運営に努めたい。		適	不適
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 ・各条例、規定に則って適切に対応した。 ・札幌市暴力団の排除の推進に関する条例の基本理念に則り、暴力団の活動に施設を利用させない、委託や物品購入など暴力団や暴力団関係者を契約の相手方としない等、暴力団排除に取り組んだ。		適	不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	次年度以降の重点取組事項
施設の維持管理において、再整備したマニュアルに基づいた確認等を徹底して行いながら、業務を履行し安定した施設運営ができた。 事業において、継続して多数の市内小学校、市外中学、高校や一般団体が利用し、自然体験を提供した。「こどもどまんなかプロジェクト」では子どもたちの意見を集め、実現に向けた支援を行い自己実現の場を提供した。 北海道内外で熊の被害が顕著であり、ヒグマのリスクが低いフィールドの価値が高まり、山の家環境に関心が寄せられた。施設整備によるハード面、マニュアル改善によるソフト面の強化を通じて、安全な自然体験活動の場を提供できた。 施設利用者数について、回復傾向が続いている。安定した施設運営及び広報の効果もあり、市内外の学校や企業からの利用者数を伸ばすことができ	「体験をとことん楽しむ探求の家」と「公正な社会を生み出す対話の家」を軸に、ウェルビーイングかつ多様性を認め合う社会の実現を目指し、自然体験をはじめとする体験活動を提供することで、すべての人たちが公正に体験活動にチャレンジできる環境を醸成する。 利用者ニーズや学校教育の動向をとらえたプログラムの充実化と戦略的な広報活動を行い、また、事前説明会・下見会の発展をととして市内小学校の体験活動の拡充を目指す。さらに、SNSによる広報や野外活動団体のネットワークを活用し新規利用団体を獲得することでより広い層へ山の家での体験活動を伝える。 利用申請及び準備において、デジタルツールを活用し、利用者の簡便化を図る。 加速する物価上昇に対応するため、施設維持経費や料金等を見直し、体験機会の維持に努める。

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
利用者アンケート結果のとおり、施設職員の丁寧な対応や提供プログラムの内容等に対して高い評価が得られており、良好な施設運営が行われていることが窺える。 一方で、令和7年1月に女子浴室でレジオネラ属菌が検出された際に、検査結果を見落とし、発覚が遅れた事案に関しては、安全管理について再検討し、ダブルチェックを徹底するなど再発防止に努めている。引き続き、安全・衛生管理について最大限注意を払って施設運営にあたる必要がある。 また、施設の利用しやすさやプログラムの魅力、利用者満足度の高さ等を効果的にPRLし、各種団体、企業や家族など学校団体以外への働きかけや、新たな取り組みを積極的に進め、閑散期である冬季間における利用者を確保することにより収支の安定に努めていく必要がある。	【改善指導】 令和7年1月にレジオネラ菌が検出されていたにも関わらず、検査結果を見落とし、浴室が使用されていた事案について令和7年5月に改善指導(①～③)を行った。①第三者に対する委託業務等における適正の確保 ②受託者への適切な監督、履行確認 ③管理水準の維持向上に向けた取組 【対応状況】 改善指導に対する指定管理者の取組状況について令和7年7月に実地確認を行った。 ①への対応：水質検査業務委託の仕様書に、「異常値が出た項目があった場合には、直ちに委託者及び札幌市教育委員会へ電話で報告すること。」を追記する覚書が交わされていることを確認した。 ②への対応：各種検査に施設職員が漏れなく立ち会っていることを確認した。また、検査項目や手順が多岐にわたる特定建築物環境衛生管理業務について、作業手順書及び作業手順確認書を作成し、履行検査実施時に複数名で共有していることを確認した。 ③への対応：衛生管理に係る点検・測定結果について、担当者がチェック表に結果を転記し、結果が館長まで報告されていることを確認した。そのほか、年間の衛生管理計画書を作成し、点検項目等が一目でわかるような工夫がなされていることも確認した。